

平成 21 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

広島市立古田中学校

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成 21 年 4 月 21 日 (火)

3 調査実施学校数 (公立学校) 等

区 分	調査実施校数 (校)			調査実施者数 (人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第 6 学年	21,482	545	140	1,137,844	26,002	10,870	—
中学校第 3 学年	9,851	247	64	1,033,909	23,033	9,025	—

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題 [A問題]

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題 [B問題]

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
69.9	72.9	71.9	—	50.5	53.8	53.2	—	78.7	81.3	80.7	—	54.8	56.6	57.1	—

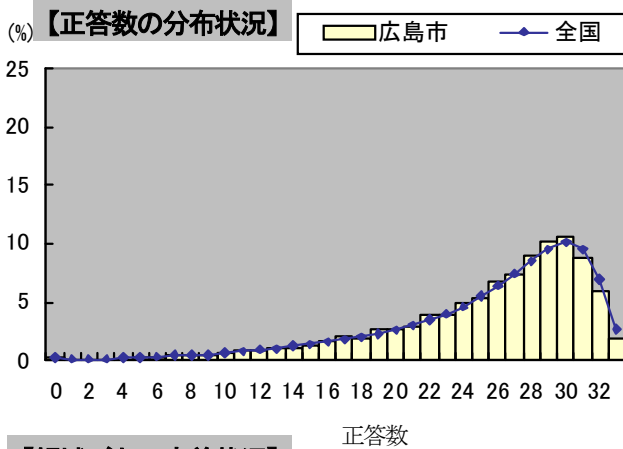
【中学校】

国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
77.0	77.6	76.6	76.6	74.5	74.8	73.7	75.6	62.7	62.9	62.3	67.1	56.9	56.2	55.1	61.8

6 各教科の調査結果の概要

【中学校国語】

国語 A



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	86.8	86.5	86.8
書くこと	64.6	64.8	64.2
読むこと	75.7	75.2	76.4
言語事項	76.0	75.6	74.8

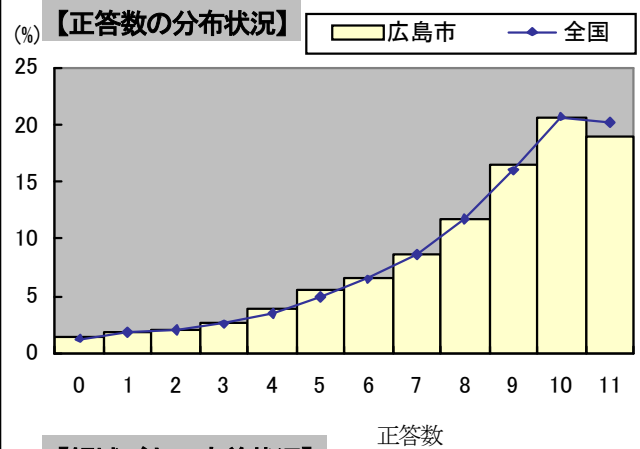
【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.0	75.8	75.3
短答式	78.4	77.7	78.3
記述式	—	—	—

定着状況

- 小学校段階の漢字について、特に「書くこと」が定着していない。
- 古典の歴史的仮名遣いから現代仮名遣いへの書き換え、古語の意味・文法などの言語事項は、ある程度定着している。
- 自分の考えを書いたり、まとめたりはできるが、よりの確に捉え、適切に表現するところまでは到っていない。

国語 B



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	72.5	71.5	74.8
読むこと	74.5	73.7	75.6
言語事項	—	—	—

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	70.2	69.9	69.6
短答式	82.0	81.0	83.1
記述式	72.5	71.5	74.8

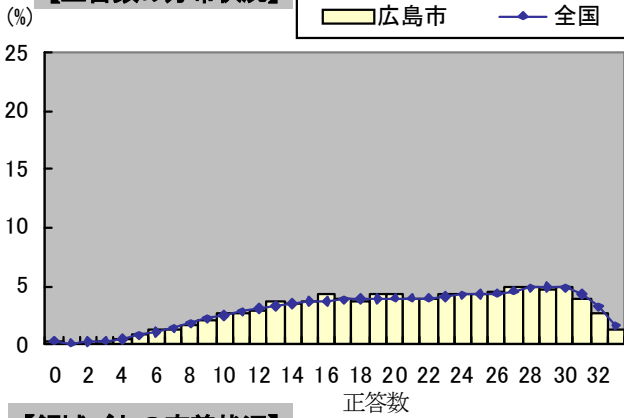
課題

- 小学校段階の漢字の読み書きをもっと定着させていく必要がある。
- 文脈に沿って的確に読み取る力を育てる必要がある。
- 主題に即して、考えたことをまとめたり、文章に表したりする力を身につけさせる必要がある。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	67.3	66.7	72.5
図形	64.6	64.4	67.7
数量関係	56.2	55.8	61.1

【問題形式による定着状況】

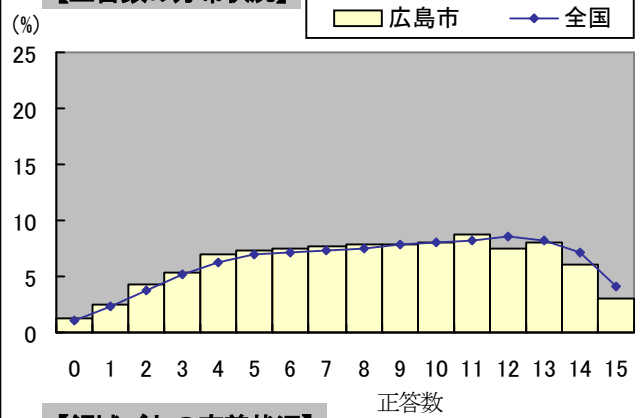
問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	60.5	60.2	64.3
短答式	66.1	65.5	71.4
記述式	—	—	—

定着状況

- 「数と式」「図形」「数量関係」等、全ての領域で全国平均を上回っており、基本的な知識や計算力は定着していると考えられる。

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と式	61.4	58.5	63.5
図形	57.5	56.1	64.1
数量関係	54.1	52.4	58.7

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	61.6	59.8	65.3
短答式	70.3	69.8	75.7
記述式	40.6	37.7	46.6

課題

- 「説明する」問題での正答率が極めて低い。論理的に考え、表現していく力を育成しなければならない。
- 「図形の知識」の分野が十分には定着していないので、再度復習、確認しておく必要がある。

全国学力・学習状況調査の結果に基づく指導方法等の改善計画

広島市立古田中学校

全国学力・学習状況調査 正答率

〔A：主として知識〕 〔B：主として活用〕

	国語A	国語B	数学A	数学B
学 校 (%)	76.6	75.6	67.1	61.8
広島市 (%)	76.6	73.7	62.3	55.1
広島県 (%)	77.6	74.8	62.9	56.2

	主な課題	要 因
国 語	①小学校で学習する漢字の読み書きの力が定着していない。 ②文章を書く際に、主述関係を的確に捉え、表す力が定着していない。	○新出漢字の練習に終始しており、既習漢字の練習をさせていない。 ○教材等の文章の中にみられる表現を、自分の文章表現に生かす指導ができていない。
	＜課題解決に向けた国語科における具体的実践＞	
	①新出漢字にとどめず、小学校段階からの既習漢字の反復学習にも力を入れる。 ②短文作成の練習を授業に取り入れる。 ③小グループ学習を取り入れ、互いの意見交流を通して、各自の考えを深めさせる。	

	主な課題	要 因
数 学	①事象を数学的に解釈し、問題解決の筋道を数学的に考え、表現する力が弱い。 ②「扇形の面積の算出」「図形の知識」に関する定着率が低い。	○日常生活の中の数学的事象を授業で取り上げることが不十分である。 ○日々の授業での確認・復習テストが十分とはいえない。
	＜課題解決に向けた数学科における具体的実践＞	
	①章の導入では必ず日常生活の中の数学的事象をとり扱い、小グループも活用した問題解決的な学習に取り組みさせる。その中で、数学的に考え、他者に説明できる力を育成していく。 ②授業での基礎の確認・復習テストの取り組みを、さらに充実させる。	

学力向上へ向けた全校的な取組（課題解決に向けた具体的実践）

- ①授業での「基礎基本の定着」「活用する力の育成」の前進のために、反復練習・確認テストの工夫、小グループ形態の活用、身近な事象の教材化、「考え、表現する」展開（教材）の工夫等に、各教科の特性を生かしながら取り組む。
- ②教科・学級・学年・部活動間の連携の下（生活指導の視点も踏まえ）、補充学習を一步ずつすすめる。
- ③基礎学力の向上を支えるために、家庭学習を充実させる（各教科での課題提示の工夫／家庭との協力により、土台となる生活習慣の改善を図りながら）。